

県内の遺跡・遺物30

菅原古墳 (昭和27年 県指定)

所在地：中頸城郡清里村菅原字天神林

頸城平野東部古墳群には、「宮口古墳群」(牧村：国指定史跡)・「^{みずしな}水科古墳群」(三和村：国指定史跡)など6つの古墳群があり、菅原古墳群はもっとも南方にある古墳群である。しかし昨年、新井市吉木の西俣遺跡で横穴式石室の円墳が発見されており、菅原古墳群の南方にも古墳群の存在する可能性がでている。

菅原古墳群は古墳時代後期に造営された群集墳である。明治42年の調査では108基の古墳が数えられ、江戸時代中期には150基ほどの古墳があったと言われている。しかし、現在は40基の円墳と1基の前方後円墳が残存するのみである(清里村教育委員会『菅原古墳群発掘調査報告書 第6・15・16・28号墳』)

「菅原古墳」と呼ばれる前方後円墳は古墳群の南端、延喜式内社である菅原神社境内にあり、主軸の長さは約30mを測る。後円部では天井石・側壁の一部が露出しており、内部主体は横穴式石室と推定されている。前方後円墳は、中越・下越地方では古墳時代前期のものが散在し、上越では新井市の観音平古墳群でそれらしきものが昨年確認されている。しかし、後期から終末期にかけては、菅原古墳は県内唯一のものであり、前方後円墳の消長を知る上で貴重な資料である。



菅原古墳 (手前左が前方部、右奥が後円部)

埋文にいがたNo. 32

発行 (財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新津市金津93番地1 e-mail:maibun@coral.ocn.ne.jp

TEL (0250) 25-3981 FAX (0250) 25-3986

印刷 (株) 文久堂